

協合日

休日施工に高品質常温合材

合材工場の土日閉所後押し

日本アスファルト合材協会（日合協、今泉保彦会長）は、高品質の常温合材「重交通対応・全天候型常温合材」の積極的な活用を呼び掛けている。常温合材は、補修材として使用されることが多いが、高品質の製品であれば、補修だけでなく、車道・歩道舗装に求められる品質も満たしている。高品質な常温合材の

休日施工への活用を呼び掛け、合材工場の土日閉所を後押しする考えだ。常温合材は、ポットホール（ポットホール）の補修材など、用途が限られるイメージが定着しているが、高品質な製品は、加熱合材の品質規格を上回るものも流通している。日合協が日本道路建設業協会・道路試験所で行った性能試験の結果によると、こうした製品は、東京都建設局の土木材料仕様の品質規格にも適合しているという。

品質の高い常温合材であれば、事前に道路管理者と協議し、使用の了承を得ることもできる。日合協は、常温合材の補修材としてのイメージを払拭するとともに、個別工事ごとに使用を申請するよう、施工者に呼び掛けている。

日合協が高品質な常温合材の普及に力を入れる

のは、合材工場の働き方改革を進めるためだ。日合協の団体会員である東京アスファルト合材

協会の会員は、2024年度から土日祝日の合材出荷に完全予約制を導入している。ただ、24年度

1年間の土曜日の閉所実施率は34・4%、日曜日は65・0%にとどまり、依然として休日施工のニーズは高い。土日に少量であっても合材の出荷予約があると、土日に工場を稼働するケースも多く、結果として土日完全閉所を妨げる。

休日施工に常温合材が普及すれば、合材工場の閉所が進むだけでなく、施工者もストックしてある常温合材を使用できるため、合材工場への引き取りの手間を省略できる。また、加熱合材と異なり、常温合材には温度低下に伴う出荷範囲の制限がなく、災害対応の強化も期待できるという。

日合協は、土日に完全予約制を導入している東京都内を足掛かりとして、高品質な常温合材の活用を全国に広げたいとしている。

府内閣と省文科

学校の防災強化で意見交換

自治体への働き掛け要望

文部科学省の金城泰邦大臣政務官は17日、内閣府の今井絵理子大臣政務官と意見交換し、学校施設の防災機能強化するため、地方自治体の防災

官は、自身が主査を務める検討会の成果として、学校施設の災害リスクを確認するためのチェックリストを今井政務官に手渡した。写真。チェックリストは、学校周辺の災害別のリス

ク、学校施設の脆弱（ぜいじゃく）性と必要な対策、避難所として必要な防災機能を総括的に把握するためのもの。今後、自治体に配布し、学校施設の整備・改修時や、ハザードマップの見直し時などに活用してもらう。



学校施設の構造体の耐震強化、つり天井の落下防止対策、非構造部材の耐震点検状況などの他、地震、